

共同記者会見資料



長岡市



小千谷市

復興の象徴として、世界に誇る地域の宝として 「錦鯉」を両市が「市の魚」に制定

中越大震災から10年目を迎え、錦鯉発祥の地である長岡市と小千谷市は、「錦鯉」を「市の魚」として制定します。

1 制定の趣旨

①中越大震災で甚大な被害を受けた両市が、錦鯉を「復興の象徴」として共有

②錦鯉を「世界に誇る地域の宝」として国内外へ発信

これは、他に例のない市域を超えた取り組みであり、全国で錦鯉を市の魚とする自治体は、ありません。

2 制定の経緯

約二百年の歴史を持つ錦鯉の養殖は、長岡市と小千谷市にまたがる、かつての「^{にじゅうむらごう}二十村郷」を発祥の地とし、現在も重要な産業として発展しています。

このたび、小千谷市錦鯉漁業協同組合、東山地区振興協議会、長岡市錦鯉養殖組合及び山古志住民会議の4団体から「錦鯉を市の魚にすることの要望書」の提出を受け、改めて関係者の更なる復興への思いを強く受け止め、取り組むものです。

3 制定日及び制定の手続き

平成26年10月23日（両市とも同一日）に、告示により制定します。

【参 考】

○今後の主な錦鯉イベント

・10月26日（日） 第61回長岡市錦鯉品評会（制定記念の特別賞を設置）

会場：山古志支所

第48回JA越後おぢや錦鯉品評会

会場：JA越後おぢや 小千谷車輛農機センター

・11月1日（土）・2日（日） 第54回新潟県錦鯉品評会

会場：小千谷市総合体育館

○二十村郷

中越大震災で大きな被害を受けた長岡市の山古志地域、川口地域北部、太田地区、そして小千谷市東山地区は、かつて「二十村郷」と呼ばれた1つの地域でした。

この地域では、錦鯉や牛の角突き（国指定重要無形民俗文化財）など、独自の文化が育まれています。

二十村郷は、錦鯉の発祥地として世界に広く知れ渡っており、養殖池数、事業者数ともに全国トップの規模を誇っています。

裏面へ続く

○錦鯉の主な輸出先 ー世界28カ国に出荷

錦鯉は、国内はもとより、世界へ輸出され、錦鯉を通じた交流が生まれるなど、日本と世界の人々との友好親善の役割も果たしています。

- ・北米（アメリカ合衆国、カナダ）、ヨーロッパ（イギリス、ドイツ連邦共和国、オランダ王国、ベルギー王国等）、アジア（マレーシア、シンガポール共和国等）、アフリカ（南アフリカ共和国等）
- ・昨年度の我が国の水産品輸出額（観賞魚）は約30億円。そのうち大半が新潟県産（農林水産省）
- ・業界関係者によれば、生産高の約7～8割が輸出されています。

問い合わせ：長岡市市長政策室政策企画課	電話39－2204	
	長岡市農林部農政課	電話39－2223
	小千谷市農林課	電話83－3510